

平成 26 年度学校評価

学校目標 1

「将来の大学進学を見据えた学力の向上を念頭におき、生徒一人ひとりのニーズに応える学習支援体制を充実させる。」

| | | |
|---------|---|---|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 授業開始時間の前や授業終了後の放課後の時間を有効活用して、生徒の個別支援に対応する。 大学進学を見据え、長期休業中に発展的な内容を取扱う補習を幅広く実施する。 既習の学習内容が十分に定着していない生徒を対象とした補習を放課後や長期休業中に実施する。 近隣の大学等との連携を通じて、生徒一人ひとりの興味、関心に応じた多様なプログラムを提供する取組を進める。 自然科学コースの学校設定科目の授業において、外部講師による出前授業や生徒の興味、関心に応じた探究活動や調べ学習を幅広く取り入れる。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 補習、補講の参加者が増えたか。 発展的内容の講座を展開することができたか。 家庭学習の大切さを理解させ、定着させる取組ができたか。 近隣の大学等との連携において、新しいプログラムを開発できたか。 自然科学コースの学習において、生徒の知的好奇心を高めることができたか。 自然科学コースの研究発表の充実が図られたか。 |
| 校内評価 | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着から大学入試対策に至るまで開設講座数を増やし、生徒のニーズに合った補習、補講を長期休業中や課業前後を活用し組織的に実施した。 近隣の大学等との連携においては、理系中心のプログラムから文系を志望する生徒にも取組みやすい講座を設定することができた。また、1年生は全員がそれに2回以上参加し、進路を決める契機となったケースもあった。 自然科学コースにおいては、自然科学教室や出前授業をはじめとして、生徒の興味・関心をひくような授業展開が行えた。 |
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動との両立を図りながら、基礎学力や応用力の向上を目指し、生徒のニーズにあった内容、形態の補習、補講を検討していく。 家庭学習の時間が少ないことが大きな課題であり、その習慣を定着させるため、ICT 機器の利活用も視野に入れた学校全体での取組が必要である。 高大連携については、大学側に対し積極的な提案を行い内容をより充実させていくとともに、2、3年生に対しても積極的な参加を促していく。 自然科学コースの今までの成果を総括し、今後の高校改革の動向を踏まえ、既存の内容に捉われない新たな発想から授業内容を充実させていく必要がある。 |
| 学校関係者評価 | <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習面の満足度が、部活動や行事の満足度と比べて低い。生徒一人ひとりの学習や進路選択をサポートすることが重要ではないか。 自然科学コースの生徒の満足度が一般コースの生徒に比べて低い。同じ取組を繰り返すのではなく、新たな取り組みを考えることも必要ではないか。 | |
| 学校評価 | (学校評価) A | |
| | <p>(改善方法等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒は学習と部活動、行事の両立に向け意識をもって取り組んでいる。これに応えるため生徒の主体的な学習活動を積極的に支援する校内体制を整備していくとともに、生徒にとって魅力ある教育活動が展開できるよう一層の改善を図っていく。 | |

学校目標 2

「学校や地域での協働を通じて、主体的に判断し行動できる力を培うとともに、豊かな感性と心、健やかな体を育む。」

| | | |
|-------|---------|---|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動、HR 活動を通じて、生徒一人ひとりが様々な場に応じたマナーやルールを自ら進んで守ろうとする意識を高める取組を進める。 学校行事、部活動、HR 活動における他者との協働を通じて、他者理解力、人間関係力、計画実行力等のキャリア能力の向上を図る。 学校行事や部活動で得た生徒一人ひとりの成果が自己のキャリア形成に繋がるよう、行事内容の精選や指導方法の工夫や改善に取組む。 留学生との交流会等の国際理解教育を通じて、異なる文化や考え方を認め合う姿勢を育む。 食や運動等を通じて自らの心身の健康について考えるとともに、自他の「いのちの大切さ」について共に考える取組を進める。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 服装、身だしなみや授業中のマナー等について、生徒の自発的な変化が見られたか。 学校行事や部活動に生徒の主体的な活動を幅広く取り入れられたか。 学校行事や部活動に対する取組を生徒各自が振り返る機会を提供できたか。 国際理解教育を充実できたか。 生徒自らが心身の健康や「いのちの大切さ」を考える取組が学校行事や HR 活動等で実施できたか。 救急法講習を充実させることができたか。 |

| | | |
|---------|----------|--|
| 校内評価 | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動においては生徒が主体的となって企画、運営し、特に3年生は責任ある態度で積極的、主体的に関わることができた。 「総合的な学習の時間」を中心に関連教科の授業においても、国際社会や地域研究に対する学びを取入れ、生徒の理解や考えを深めることができた。 各教科の授業、総合的な学習の時間、学校行事等の機会に応じて生徒相互が協力しお互いを思いやり尊重する活動を展開した。 多摩消防署と連携した防災訓練や救急法講習会を実施し、特に救急法講習会は内容も充実し、参加者も増加した。 |
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 通学マナーや授業マナー等の向上について、生徒一人ひとりがより自発的に取組んでいくよう、創立以来の校訓である「自由と規律の精神」を教職員も生徒も再認識していきたい。 学校行事や部活動を通して、生徒の様々な資質や能力を生徒が自覚をもって培っていけるよう、生徒に対して振返りの機会を設定していく必要がある。 いじめ問題や交通事故等の課題に対し、未然防止に重点を置いた指導をより効果的に展開していく必要がある。 |
| 学校関係者評価 | | <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動や行事については生徒も充実した活動を行っているので非常に良いことだと感じる反面、学習との両立については心配な面が多々ある。保護者としてどのように対応していったらよいのか助言が欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動を途中で退部した生徒について、その理由を分析する必要がある。 |
| 学校評価 | | (学校評価) B |
| | | <p>(改善方法等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開校以来受け継がれている「自由と規律の精神」を生徒、教職員とも再認識を行い、生徒自らが進んで学校や社会の規律やマナーを遵守する態度をより涵養するとともに、学校行事や部活動を通して、生徒のキャリア能力や社会性・協調性などの向上が図れるよう工夫を行っていく。 |

学校目標3

「授業に生徒中心の学習活動を多く取入れることにより、生徒に学習への主体的な取組を促し、確かな学力の向上を図る。」

| | | |
|-------|----------|--|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で生徒に考えさせる機会を多く設け、生徒一人ひとりの思考力や判断力の向上を図る。 授業の中で討議、発表、文章による論述の機会を多く取入れ、生徒の言語活動を活性化し、生徒一人ひとりのコミュニケーション力や表現力を高める。 生徒一人ひとりの学習内容に対する興味、関心を高め、確かな学力を身に付けさせる授業展開や授業形態を学校全体で研究開発する。 ICT機器を授業で有効活用する方法を学校全体で研究し、授業改善に繋げる。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 授業中の生徒の取組に変化が見られたか。 「生徒による授業評価」の結果に変化が見られたか。 学校全体の授業形態、授業展開に変化が見られたか。 学校全体の授業づくりに関する研究開発が活発に行われたか。 ICT機器を授業に利用する教員数が増えたか。 教員のICTに係るスキルの向上が見られたか。 |
| 校内評価 | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> グループワークや発表会、レポートやワークシート、さらに生徒の状況に合わせた個別指導等を各教科が取入れることで、より主体的に学び、達成感を得られる生徒の数が増えている。 授業形態についてはどの教科もグループワークに積極的に取組んでいる。また、体験型学習を重視した授業も多くの教科で積極的に取入れられている。 授業内に討議、発表、文章による論述など生徒の言語活動の充実を図る取組を取入れる場面が各教科で増えている。 新たな試みとして近隣中学校2校との授業交流（相互の授業参観）を実施した。 教職員の6割がICTを授業に取入れた。 関係機関との連携を図り教職員の研修を複数回実施しスキルが向上した。 ICT機器を用いた授業の内容を教科内で共有し、担当ワーキンググループが中心となり、より効果的な活用方法を検討した。 |
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価アンケート結果では「授業のわかりやすさ（説明のわかりやすさ）」の項目は比較的高い評価を得ているが、授業の「充実感」「理解度」の項目はそれに比べて低くなっているため、この要因について様々な角度から検証する必要がある。 教科会を定期的実施する等、組織的な授業改善を進めていく中で、授業内容の精選や主体的な学習意欲を喚起する授業形態の検討をさらに進めていく。 ICT機器を用いて授業を行うことに多くの教員が取組み始めることができたが、まだ活用方法については検討の余地がある。今後は研究授業等の機会を利用して、より効果的な活用方法を引き続き検討していく必要がある。 ICT機器の利活用促進には、よりよいインフラ環境の構築を進めていく必要がある。 |

| | |
|-------------|--|
| 学校関係者 評価 | (保護者) ・家庭学習の充実に向けて保護者も ICT の活用については期待している。また、何か良い教材や学習ソフトがあれば、学校ホームページ等を通じて是非紹介して欲しい。 (学校評議員) ・生徒の家庭における学習時間が少ないので、家庭学習の充実を図ることが重要である。 ・生徒の学習内容に対する興味・関心をどのように高めるかが重要である。ICT を授業づくりにどのように活かすかが重要である。 |
| 学校評価 | (学校評価) A |
| | (改善方法等) ・家庭学習の重要性がここ数年浮き彫りになってきている。生徒の学習意欲を喚起し、家庭における学習時間を増やすには、日々の授業を通して、学習内容への興味・関心を高め、学ぶことの楽しさを体験させることが重要である。ICT の利活用も含め、授業と家庭学習の有機的連携を図れるよう、工夫を行っていきたい。 |

学校目標 4

「生徒自らが、自分の個性・適性を理解し、将来の生き方、あり方を主体的に考え、行動できるように、キャリア教育の充実に努める。」

| | | |
|-------------|---|--|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 個別指導や全体指導、また外部資源の有効利活用を通じて、生徒一人ひとりが自分の適性や学力について自己理解を深める取組を進める。 様々な進路情報を生徒保護者にきめ細かく提供することにより、生徒一人ひとりの進路意識を高め、適切な進路選択を促す取組を進める。 生徒一人ひとりが第一希望の進路先を目指して、粘り強い努力を継続できるように、学力向上に向けた支援体制の充実を図る。 インターンシップやボランティア活動、校外講座等の様々な体験を通じて、実社会で生きるために必要な力を身に付ける取組を進める。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 「学力と生活に関する診断調査」や外部模擬試験等の結果を面談等で積極的に活用したか。 オリエンテーションプログラムは生徒が3年間を考える契機となっているか。 進路だより、進路ガイダンス、保護者説明会等を通じて、有益な進路情報を生徒、保護者に提供できたか。 総合的な学習の時間やLHRを進路学習に有効に活用できたか。 インターンシップやボランティア活動、校外講座等への生徒の関心が高まったか。 |
| 校内評価 | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 模擬試験や「学力と生活に関する診断調査」結果を、担任・生徒・保護者との面談に有効に活用できるよう、担当グループの主催で分析結果報告会を実施して担任に情報提供するとともに、担任はLHRや面談等で学習方法の改善や学習習慣の定着を目指した指導を行った。 外部教育関係機関との連携や、PTAと協力した保護者対象進路説明会（卒業生保護者による座談会）等、機会に応じた情報提供を行うことができた。 特に校外で実施した2回の保護者対象進路説明会では、それぞれ100名（1学年対象）、300名（1・2学年対象）超の保護者の参加を得た。 総合的な学習の時間については、1学年から3学年1学期まで、キャリア教育を中心とした内容を扱っており、少なからず生徒の自己理解、進路選択に寄与している。 |
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 模擬試験の受験者は増えているが、それを活用した進路指導について、特に個に応じた指導の展開方法については検討する必要がある。 時間的制約がある中で、特に「進路のしおり」をより有効に活用した指導を工夫していく必要がある。 生徒、保護者のニーズを的確に把握したうえで、よりタイムリーな内容の説明会等を企画、実施していく必要がある。 キャリア教育の視点から「総合的な学習の時間」の内容を充実させるため、関係グループ間の連携や中期的な視点を踏まえた検討が必要である。 インターンシップやボランティア活動に参加する生徒数が伸びないため、生徒にとって興味関心を引き付ける場の開拓、内容の充実、情報提供の工夫が必要である。 |
| 学校関係者 評価 | (保護者) ・学校と保護者との信頼関係ばかりでなく、保護者間の連携も深まるような取り組みを期待したい。 (学校評議員) ・生徒の進路選択に対する指導については、育てたい生徒像等の学校のグランドデザインに基づいた学校としての明確な方針を打出して欲しい。 | |
| 学校評価 | (学校評価) A | |
| | (改善方法等) ・キャリア教育については、いくつかの新たな試みを実施するとともに、生徒に対ししっかりとした動機付けと目的意識を持たせる指導を展開してきた。今後は「いける大学」ではなく「行きたい大学」をしっかりと自己選択し、その実現に向けてたゆまない努力をする生徒を育てることを目標とし一層の充実を図っていく。 | |

学校目標5 「保護者や地域との協働や連携を通じて、地域から信頼される学校づくりに努める。」

| | | |
|---------|--|---|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、体験授業、学校見学、中学校訪問説明会、部活動交流を通じて、地域や中学生等に本校の特色や学校づくりを知ってもらう全校的な取組を進める。 ホームページ等を通じて、保護者や中学生、地域に対して様々な情報を積極的に発信する取組を進める。 保護者や地域関係者との様々な情報交換、協議、交流活動を通じて、共に歩む学校づくりの取組を進める。 地域社会との連携を深めながら、生徒一人ひとりが日常生活の中で防災意識を高める取組を進める。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、体験授業等に参加する中学生、及びその保護者の数は増加したか。 中学校に対する説明内容に新たな工夫が見られたか。 各グループ等が協力しホームページを通じて積極的な情報発信ができたか。 地域と連携した音楽交流会や保護者と連携した校内美化活動を定着させることができたか。 地域の活動に生徒が参加したか。 生徒の防災意識を高める取組が行えたか。 |
| 校内評価 | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 学校案内やパンフレットを中学生のニーズに合わせた確かな情報が伝達できるようデザイン等を大幅に改善した。 学校ホームページについては、生徒、保護者、地域の方々が必要な情報を得られるよう、全面的にリニューアルし、各グループの協力のもと、迅速かつ的確な情報発信に努めた。 地元小中学校、地域関係者と連携した「ながさわにこここハーモニー（地域音楽交流会）」や夏季休業中のPTA環境整備事業等、生徒、保護者、教職員、地域が互いに協力し合う活動が学校行事として定着した。 長沢地区防災訓練への担当職員の参加や、生徒の意識を高めるため関連教科での防災についての授業等の取組を行った。 |
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の企画運営による説明会や中学生向け体験授業等、効果的な実施内容について検討を重ねる。 体験授業の内容について、中学生のニーズを把握した上で、高校での学びの面白さを伝えられるものに充実させていく。 地域の活動に生徒が積極的に参加できるよう、新たな活動の機会を設け、情報提供をきめ細やかに行っていく必要がある。 |
| 学校関係者評価 | <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と学校が協力して地域防災に取り組んでいくことが重要である。そのためにも、両者のパイプを今後一層深めていきたい。 生徒が地域の行事を積極的に支援してくれている。今後も引き続き生徒の参加を促す取組を続けて欲しい。 | |
| 学校評価 | (学校評価) A | |
| | <p>(改善方法等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信における学校ホームページの運用や地域との連携活動は一定の評価を得ることができた。今後は、より効率的、効果的な情報発信を追求するとともに、生徒一人ひとりに地域の一員であるという自覚を深めさせるため、地域の活動への生徒の積極的な参加を促していきたい。 | |

学校目標6 「教育環境の整備を進めるとともに、安全と安心を重視した学校づくりに努める。」

| | | |
|-------|--|---|
| 取組の内容 | 具体的な手立て | <ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃活動や地域清掃を通じて、生徒一人ひとりが身の回りの環境美化や環境保全に対する意識を主体的に向上させる取組を進める。 定期的な自転車点検等に加え、地域と連携した交通安全指導を取入れ、生徒一人ひとりの交通安全に対する意識を高める取組を進める。 保護者との密な連携を図り、情報モラルの向上に向けた取組を進める。 いじめの未然防止も含め、保護者と連携した、生徒一人ひとりの実態に合わせた教育相談体制の整備を進める。 |
| | 評価の観点 | <ul style="list-style-type: none"> 美化委員会を活用し校内美化活動を進めることができたか。 生徒の節電やリサイクル等に対する意識を高める取組が行えたか。 自転車の乗車マナーに改善が見られたか。 情報モラルの向上に向けた研修会、講演会等が実施できたか。 担任、学年団、保健室、スクールカウンセラー、保護者等の連携体制が構築できたか。 |
| 校内評価 | <ul style="list-style-type: none"> 節電、リサイクル等について関係教科の授業で取上げたり、HRでの意識喚起に継続的に取組んだ。 百合丘高校やPTAと連携した合同交通安全指導、機会に応じた校外での登下校指導、スクエアドストリート方式交通安全指導等、自転車乗車マナー向上に対する指導に取組んだ。 生徒に対する支援では、学年会等での生徒情報交換やケース会議等を実施するとともに、保護者との綿密な連携による助言、指導に全担任が粘り強く取組んだ。 特に支援を必要とする生徒、保護者には、関係グループが積極的にスクールカウンセラーとの面談を勧めたため、相談件数は昨年の16件から24件に増えた。 | |

| | | |
|--|----------|---|
| | 課題・改善方法等 | <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会の活動をより活性化するとともに、環境美化に対し、生徒の自主的かつ日常的な取組が継続するような方策を検討していく。 ・夏休み前までの期間や1年生の自転車事故が多く見られるので、期間や対象を絞った交通安全指導を強化する必要がある。 ・携帯電話等のトラブルは大人の目に触れにくく、問題行動を発見しにくいいため、保護者と連携した情報モラル指導を進めていく必要がある。 ・インクルーシブ教育の視点も踏まえ、心身に課題のある生徒に対する組織的かつきめ細やかな支援の強化をさらに進めて行く。 ・次の3年間のグランドデザインの策定あたり、高校改革の動向を踏まえながら、生徒や地域のシーズとニーズに応える本校のあるべき姿の検討を進める。 |
| | 学校関係者評価 | <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通マナーについては保護者としても非常に心配しているので、安全指導については様々な機会を通じて学校と協力していきたい。 ・いじめ等の問題行動が起きないので保護者も安心して子どもを学校に送り出せる。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通マナーについては、歩道を走行する生徒は少なくなったが、並列走行がまだ多く見られる。交通マナーは大人が見本を示すべきものであり、地域ができることがあれば、協力したい。 ・交通安全等の指導では、生徒に立ち番をさせて、危険な行為や危ない場面を自分の目で見させることも必要だと思われる。 |
| | 学校評価 | <p>(学校評価) B</p> <p>(改善方法等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は交通事故の件数も多く、生徒が加害の立場になった事案も発生した。今後はPTAとも連携を図りながら、新たな工夫を積極的に取り入れ交通安全指導の充実を図っていくと同時に、様々な機会を捉え、いのちの大切さについて考える場を教育活動の中に多く設けていく。 ・高校改革の動向を踏まえ、生徒、保護者、地域のシーズとニーズに応じた学校づくりを進めていく。 |